

「有事に備える」

茅ヶ崎市保健所地域保健課長
臼井 高之

私は、茅ヶ崎市保健所で、地域医療・地域保健の連携・調整を担う地域保健課の課長を務めて3年目となる事務職員です。

私の所属する茅ヶ崎市は、平成29年度にそれまで神奈川県が担ってきた保健所業務を引き継ぎ、保健所政令市に移行してから9年目を迎えました。当所の特徴としては、従前より県保健所の所管区域で、地域的な結びつきが強く官民様々な交流のある隣接自治体に係る保健所業務も県から受託し、1市1町を所管していることが挙げられます。

それでは、標題に掲げた当課が力を注ぐ「有事に備える」施策をふたつ紹介します。

ひとつ目は、災害時医療救護活動の体制強化事業です。地域の医療関係団体等との連携を強化し、より実効性の高い活動マニュアルへの改訂作業にともに取り組み等、住民の生命を守るため、大規模災害が発生した際の体制強化に全力で取り組んでいます。

ふたつ目は、災害発生時における人工呼吸器装着児者の避難入院体制の整備です。

在宅で日常的に人工呼吸器等の医療ケアを要する児者とその家族が、支援者と一緒に平時から災害への備えを行えるよう必要な情報を集約した「災害ノート」を、支援者の声も取り入れながら庁内統一の様式で作成するとともに、受入先の医療機関との間でルール作りも進めました。医療的ケア児者とその家族、支援者の自助力を高め、風水害等の発災時にスムーズに避難行動を開始できるよう、意識付けを続けてまいります。

ところで、私の課長としてのモットーは、課員からの相談はできる限りペンディングを避け、短い間隔で小さな決断を積み上げながら、立ち止まることなく物事を前に進めていくことです。様々な事情、背景を持つ課員たちが「みんながお互いを尊重し、やりがいを感じながら、働き続けられる職場」の実現を目標に、伝えたいと思うことを伝えられる雰囲気、環境づくりに日々取り組んでいます。

